

1 追憶の雪（仮） 台本

2
3 (■トラック 1)

4
5 ■効果音:北風の音

6 ▼位置:前【正面】

7
8 ≪巫女≫

9 後悔は誰にでもあることです。

10
11 後悔と言う名の傷を、人間であれば誰しも負っています。

12
13 小さく陽炎のようにゆらゆら揺れる傷もあれば、

14 烈火のごとく身を燃やす傷もあります。

15
16 あなたはどうでしょうか？

17
18 もしも、後悔している人間が目の前に現れたときに、
19 手を差しのべることが出来ますか？

20
21 いいえ、手を離すこと、手放すことは出来ますか？

22
23 ■編集さんへ:少し間

24 ■効果音:雪が降る音

25
26 雪が降ってきましたね。

27
28 はらはら、はらはら。

29
30 選択肢はあなたにあります。

31
32 悔いのない道を歩むことを切に願っております。

33

34 (■トラック 2)
 35
 36 ※回想。パート※
 37 ■効果音：玄関のドアを開ける音
 38 ▼位置：前【普通】
 39
 40 ≪冬≫
 41 それじゃ、行ってきますね。先輩。
 42
 43 夜の誕生日会、私、凄く、すごく楽しみにしてますから。
 44
 45 ■効果音：ドアが閉まる音
 46 ■効果音：時間経過
 47 ■効果音：着信音
 48
 49 ▼位置：左耳【普通】
 50
 51 ≪冬の母≫
 52 あ、もしもし……あなた冬とお付き合いしてる方よね
 53
 54 ……そう。私は冬の母……幸奈です。
 55 ごめんなさい、夜遅くに……。
 56
 57 あのね、娘のことなんだけど、冬は。その……。
 58 ……、心して聞いて、ね。
 59
 60 ※回想終了※
 61
 62 ■効果音：階段を上る音
 63 ■効果音：石畳を歩く音
 64
 65 ▼位置：前【普通】
 66
 67 ≪巫女≫
 68 ようこそ。追憶の社へ。
 69

70 そんなにお目目をぱちぱちさせずとも、
71 私は幽霊でもなんでもありませんよ。

72
73 不思議なことに私を見る人たちは皆、同じように驚くのです。
74

75 巫女が神社にいることに、どれだけの不思議があるのか、
76 説明を求めたくなってきました。
77

78 潰れてしまった神社であろうと、神を祀っていた社です。
79 巫女がいなくなる理由には少し弱いとは思いません？
80

81 ……。

82
83 ああ、あなたは——そうですか。
84

85 噂を聞いてこの神社へ赴いた方の方ですね。
86

87 後悔を払いたい、そのような動機でここまで、長い階段を昇ってきたんですね。
88

89 ……いえ、噂は噂です。
90

91 この社は後悔している者に対して手を差しべ、手助けをするだけです。
92

93 決して救済するわけではありません。
94

95 あなたの後悔を払拭できるのは、あなただけです。
96

97 我々は軽く背中を押す、だけ。
98

99 踏み出した足が行きつく先も、あなたが決めることです。
100

101 我々は関与致しません。関与できません。
102

103 それでもよろしければ、お手伝い致します。どうしますか？
104 はい……。かしこまりました。
105

迷いのない瞳ですね。ですが……。

106 僭越ながら、一言。

107 過去はあくまで歴史であり、その世界は幻想です。

108 決して現実には反映されず、あなたが刻んだ時間は変わりません。

109
110
111 あなたが大切にしている人を救っても、その人は帰ってくることはありません。
112 そのことをゆめゆめお忘れなく。

113
114 ではこちらへお越してください。

115
116 ■効果音：足音×2

117
118 止まって下さい。

119
120 ■効果音：巫女足音

121 ▼位置：斜め左【遠く】

122
123 こちらの鳥居を見えていますか？

124
125 ……はい、結構です。

126
127 鳥居——追憶の鳥居をくぐることで貴方は一度だけ、
128 あなたが後悔したその日へ、向かうことができます。

129
130 追憶の世界は、幻想の世界であり、過去の人物も幻影のモノとなります。
131 しかし幻影の人間も、あなたと同じ感情を持っております。

132
133 あなたが求めている本人がそこにはいるはずですが、
134 幻想の世界は貴方にとって都合のいい世界ですが、
135 幻影の人間はその限りではありません。

136
137 それを心に刻んでください。

138
139 ……。それでは、追想の義を始めましょう。

140
141 目をつむって、一歩前へ。

142

■ 効果音:足音

143

■ 効果音:鈴の音

144

145 一歩進むごとに、あなたの後悔を、あなたがもう一度会いたいと思う方を想い、
146 足を踏み出して下さい。

147

■ 効果音:足音

148

■ 効果音:鈴の音

149

■ 効果音:鈴の音

150

151 一歩進むごとに、後悔は色を失くし。また一歩進むごとに——後悔は移ろいでいく。
152 さあ、残り一歩です。後悔が色あせ、追憶の扉が開かれる。

153

■ 効果音:足音

154

■ 効果音:鈴の音

155

■ 効果音:鈴の音

156

157 いってらっしゃいませ。

158

159 後悔の果ては、苦く苦しい旅路になるでしょう。その苦みを忘れずに、
160 噛みしめながら、進んで下さい。

161

162 甘い花には毒があります。
163 それではよい旅路を——。

164

165 (■トラック3)
166
167
168 ■【主人公】立っている。
169 ■編集さんへ：ヒロインの台詞フェードイン
170 ▼位置：前【普通】
171
172 ≪冬≫
173 先輩？ 先輩……？ 先輩っ？
174 どうしましたか、急にぼーっとされて？
175
176 ■主人公：冬？
177
178 ……はい、冬ですが。ふふ、おかしい先輩ですね。
179 もし体調悪いようでしたら、ちゃんとベッドで休むんですよ。
180 それじゃあ、そろそろ大学に行きますね。先輩。
181
182 夜の誕生日会、私、凄く、すごく楽しみにしてますから。
183
184 行って……。
185
186 ■効果音：手を掴む音
187
188 せ、先輩？ どうしたんですか？ 手、ちょっと痛いですよ……。
189
190 ■効果音：抱き付く音
191 ▼位置：左耳【近距離】
192
193 きゃあ……先輩？
194
195 ………。
196 泣いてるんですか？
197
198 ▼演技指示：優しく語りかける。
199
200 ………どうしましたか？ 先輩

201
202 ………。

203
204 大丈夫ですよ、私が先輩の傍を離れるわけじゃないじゃないですか。
205 ずっと先輩と一緒にいますよ。

206
207 そんな、抱き付かれたら、痛いですよ、先輩。
208

209 ……わかりました。今日は大学、休みますから。
210 今日一日、先輩の傍にいますから、ね。
211

212 だから、泣き止んで下さい。先輩。
213 大丈夫、大丈夫ですから。
214

215 ………。

216
217 ■効果音：頭を撫でる音

218 ※編集さんへ…少し間

219
220 ふふ、少しは落ち着きましたか？

221 先輩、子供みたいです。

222
223 いつもは私リードしてくれる、頼れる大人って感じでしたが、
224 今は違うんですね。

225
226 ……幻滅なんて、そんなことはありませんよ。

227 どんな先輩でも、好きです。私、先輩の彼女さんですから。

228
229 先輩がどんな私でも好いてくれるように、私もどんな先輩も好きなんです。
230 じゃないと付き合ったりしません。同棲なんてもつてのほかです。

231
232 ……さ、いつまでも玄関の前にもあれですから、移動しましょう。

233
234 先輩……離れてくれないと、歩けないです。
235 もー困った先輩です。
236

237	※場面転換
238	■効果音：ソファに腰掛ける音×2
239	▼位置：前【普通】
240	
241	それで、どうしたんですか？
242	急に泣き出して、怖い夢と見ちゃったんですか？
243	
244	……似たようなもの？ 私がいなくなる夢とかですか？
245	……なるほどです。ふふ、先輩は意外と心配性なのですね。
246	
247	そんな簡単に私はいなくなりませんよ。
248	
249	というか、私が先輩の傍を離れたくないんです。
250	先輩が嫌がっても、ずっといますから。
251	
252	それくらい想っているのですよ？
253	だから大丈夫です。
254	
255	ずっと傍にいますよ、先輩。
256	
257	■効果音：環境音フェードアウト
258	

259	(■トラック 4)
260	
261	※マイク位置変更トラック※
262	※このトラックではマイク位置の説明が難しいので現場で説明をする予定※
263	
264	■【主人公】座っている
265	■効果音:お腹が鳴る音(主人公)
266	
267	▼位置:前【普通】
268	
269	《冬》
270	ふふ、先輩、お腹の音……。
271	泣いてたらお腹空いちゃいましたか？
272	今日の先輩は本当に子どもみたいで可愛いです。
273	
274	お昼時ですもんね、それではご飯の準備をしちゃいましょうか？
275	先輩も手伝ってくれますか？
276	
277	……はい、ありがとうございます。
278	
279	■効果音:立ち上がる音
280	▼位置:前【遠く】
281	
282	……台所まで手、繋ぎましようか？
283	……ふふ、甘えん坊さんですね。
284	
285	■効果音:手を繋ぐ音
286	■効果音:足音×2 フェードアウト
287	■効果音:冷蔵庫を開ける音
288	▼位置:マイク正面に立ち左側を向きながら【普通】
289	
290	えっと……これなら……そうですね。
291	シチューとかなら作れそうかな？
292	
293	前にカレーを作ったときの材料が結構あまってますし、丁度いいです。
294	

295 ■効果音:振り向く音 衣擦れ音などで表現
 296 ▼位置:前【普通】
 297
 298 クリームシチュー、先輩もお好きですよ？
 299 寒い冬にはぴったりです。
 300
 301 ■効果音:振り返る音
 302 ■効果音:冷蔵庫から具材を取り出す音
 303 ▼位置:マイクに背を向けて【普通】
 304
 305 玉ねぎ、にんにんにジャガイモ……つと。
 306
 307 ■効果音:振り返る音
 308 ■効果音:食材を主人公に渡す音
 309 ▼位置:前【普通】
 310
 311 はい、先輩持ってください。
 312
 313 ……ありがとうございます。
 314
 315 ▼位置:次の台詞を言いながら、前【普通】↓マイクに背を向けて【普通】に移動
 316
 317 あとは牛乳とバターですね。あっチーズも……。
 318
 319 ■効果音:食材を取り出す音
 320 ■効果音:冷蔵庫を閉める音
 321 ■効果音:移動音×2
 322 ■効果音:具材をシンクの上に置く音
 323 ▼状況:冬の隣に主人公が並んでキッチンに立っている状況です。
 324 ▼位置:マイクの右耳側に立ち、正面を向いて【普通】
 325
 326 よいしょつと……。
 327
 328 それと……先に調味料の準備もしちゃいましょうか？
 329
 330

331 ▼位置：次の台詞を言いながら、現在の位置↓前【普通】に移動。
332

333 先輩、戸棚から薄力粉とコンソメを出しておいてください。
334

335 ■効果音：主人公が上にある戸棚から調味料を取り出す音
336

337 ありがとうございます。シンクの上に置いておいてください。
338

339 ■効果音：調味料をシンクの上に置く音。
340

341 じゃあ早速作っていきますしよ。

342
343 ■効果音：まな板と包丁を取り出して置く音
344

345 まずはお野菜から切っていきますね。

346 私は玉ねぎを切りますから、先輩はジャガイモとニンジンの皮をピーラーでむいて下さい。
347

348 ■効果音：ピーラーとビニール袋を渡す音
349

350 ……はい、ピーラーとビニール袋です。
351

352 ■効果音：ピーラーでジャガイモと人参の皮をむく音
353 (皮がビニール袋に落ちる音)。
354

355 ■効果音：玉ねぎの皮をむく音

356 ▼位置：マイクの右耳側に立ち、正面を向いて【普通】

357 こうして玉ねぎの皮をむいていると、

358 小さい頃、玉ねぎの皮が無限に剥ける物だと、勘違いしていたことを思い出します。
359

360 お母さんと、よくお料理をしていたんですけど、

361 玉ねぎの皮、剥きすぎだって怒られちゃいました。

362 懐かしいです。

363
364 ……。

365
366 ん、剥けました。

367 ▼位置：次の台詞を言いながら、現在の位置↓右耳【普通】に。
368

369 先輩はもう少しかかりそうですか？
370 ……はい。それじゃ先に玉ねぎ切っちゃいますね。
371

372 ■効果音：玉ねぎを切る音
373

374 ▼位置：マイクの右耳側に立ち、正面を向いて【普通】

375 レシピでは薄くスライスするんですけど、
376 玉ねぎのシャキシャキ感が好きなので、ちよつとだけ厚めに切るんです。
377

378 これも昔の話ですが、玉ねぎの薄切りを極限まで薄くできるか、
379 挑戦したことがあります。
380

381 なぜか昔の私は、玉ねぎに異様な執着心を持っていましたね。ふふ。
382

383 ……。

384 あの時の献立もシチューでした。
385

386 限界まで薄く切った玉ねぎは、
387

388 シチューが出来上がる頃には見る影もなくなっていて泣きました。
389

390 玉ねぎに苦い思い出が多い私です。ふふ。
391

392 ……。

393 よし、ちょうどいい薄さです。
394

395 ▼位置：次の台詞を言いながら、現在の位置↓右耳【普通】に。
396

397 あつ、先輩バット、取ってもらえますか？
398

399 ■効果音：バットを取って、シンクの上に置く音。
400

401 ありがとうございます。
402

403 ■効果音:玉ねぎをバットに移す音
 404 ▼位置:マイクの右耳側に立ち、正面を向いて【普通】
 405
 406 切った玉ねぎをバットに移して……。
 407
 408 ▼位置:次の台詞を言いながら、現在の位置↓右耳【普通】に。
 409
 410 次は……あつ、皮剥き終わったんですね。
 411 綺麗に剥けてますね、流石先輩です。
 412
 413 そしたらついでに切っちゃいますね。
 414
 415 ■効果音:ジャガイモを切る音。
 416 ▼位置:マイクの右耳側に立ち、正面を向いて【普通】
 417
 418 ジャガイモは適当な大きさに切って……。
 419
 420 ジャガイモも小さくし過ぎると、
 421 途中で全部溶けちゃうのである程度の大きさを確保しないとですね。
 422
 423 いつか、全部シチューにとけた具なしシチューとか作ってみたいかもです。
 424 果たしてお野菜の味はしっかりするのか？ 乞うご期待です。ふふ
 425
 426 ……。
 427
 428 こんなところでしょ。
 429
 430 ■効果音:ジャガイモのバットに移す音
 431
 432 ん、ジャガイモもバットに移して、次はにんじんですね。
 433 先輩が切ります？ ちょっと手持ち無沙汰感が出てますし。
 434
 435 ……はい、一緒にお料理も楽しいですね。
 436
 437 ■効果音:包丁を渡す音
 438 ■効果音:移動音

439 ▼位置：右耳側に立つ【普通】マイク正面の手元を見るようなイメージ。
440

441 先輩、猫の手ですよ猫の手、にゃーにゃーです。
442

443 ▼位置：右耳【普通】
444

445 ふふ、なんてです。先輩もお料理しますもんね。
446

447 その鮮やかな腕前で、人参さんを両断して下さい。
448

449 ■効果音：ニンジン切る音。
450

451 先輩が切ってる間に、鶏肉持って来ちゃいますね。
452

453 ■効果音：足音 冬
454

455 ■効果音：鶏肉をシンクの上に置く音
456

457 戻りました。いつも胸肉ですが、今日はもも肉です。
458 禁断の鳥さんです。

459 ……明日はランニングしましょう。
460

461 ……。
462

463 にんじんもいい感じですね。
464

465 そしたらそれもバットに移しちゃってください。
466

467 ■効果音：人参をバットに移す音
468

469 ……まな板ですか？そうですね、鶏肉を切る前に一度洗いましうか？
470 先輩がやってくれるんですか？
471

472 ……ありがとうございます。
473

474 ■効果音：移動音 主人公 一歩横にずれるような音
475

476 ■効果音：まな板を軽く洗う音
477

475 ■効果音:まな板を置く音
476
477 ……はい、ありがとうございます。
478 では鶏肉は私が切りますね。
479
480 といつても、皮も剥く必要もないので、すぐに終わりますけど。
481
482 ■効果音:鶏肉をバックから出してまな板の上に置く音。
483
484 今日は、皮も食べちゃいましょう。どうせ明日運動するので、きっと大丈夫です。
485
486 ■効果音:鶏肉を一口大に切る音。
487 ▼位置:マイクの右耳側に立ち、正面を向いて【普通】
488
489 先輩、今のうちに、フライパンに火を点けておいてください。
490
491 ■効果音:ヒロインの後ろを周りヒロインの右側に移動する音
492 ■効果音:フライパンをコンロの上に乗せて、火を点ける音
493 ▼位置:マイクの左耳側に立ち、正面を向いて【普通】
494
495 最初は中火でお願いします。
496
497 ■効果音:鶏肉切る音、ここまで。
498 ▼位置:左耳【普通】
499
500 ふう……これであとはフライパンで調理をするだけです。
501 シチュウは案外簡単にできるのはありがたいです。
502
503 フライパン、温まりましたか？
504 ……それじゃ、炒めていきましょう。
505
506 火の番は先輩に任せました。
507 具材は私が入れます。共同作業というやつですね。
508
509 はい、木へらです。
510

511 ■効果音:木べらを取って、渡す音
512
513 まずはバターから、先輩横から失礼しますね。
514
515 ■効果音:バターを入れる音
516 ■効果音:フライパンを動かす音
517 ▼位置:左耳側に立つ【普通】正面を向いてマイクの手元を見る
518
519 次は玉ねぎです。
520
521 ■効果音:玉ねぎを入れる音
522 ■効果音:ここから音声に合わせて炒める音
523 ▼位置:左耳【普通】
524
525 しんなりとするくらいまで炒めましょう。
526
527 バターと玉ねぎのいい匂いです。
528 ふふ、なんだか私もお腹が空いてきちゃいました。
529
530 先輩の食いしん坊さんが移ってしまったのかもです。
531
532 ■効果音:しばらく炒める音
533
534 あっ白ワイン忘れていました。
535
536 ■効果音:下段の棚から白ワインを取る音
537 ■効果音:ボトルをシンクに置く音
538 ▼位置:左耳側に立ち正面を向いて【普通】
539
540 よいしょと……。
541
542 ▼位置:左耳【普通】
543
544 いい感じに仕上がってきましたね。
545 次は鶏肉を入れましょう。
546

547 ■効果音:鶏肉を入れる音
548 ▼位置:左耳側に立つ【普通】正面を向いてマイクの手元を見る
549
550 はい、ぼとぼと〜。
551 それと白ワインも大さじ一杯ほど。
552
553 ■効果音:白ワインを大匙に移す音
554 ■効果音:白ワインを大匙一杯入れる音
555 ▼位置:左耳【普通】
556
557 ではこのまま鶏肉に火が通るまで、じっくり炒め続けましょう。
558
559 ふふ、なんだかお料理番組しているみたいですね。
560
561 アシスタントの井糸 冬です。みたいな感じです。
562
563 調味料が小さい透明の容器に、入れてあるのに懂れていた時期があるんですが、
564 わかります？ ボウルみたいな小さな耐熱容器です。
565
566 事前に用意されている調味料を次々入れるの、やってみたかったですよ。
567
568 けど、いざお料理をやってみると、これはもしかして二度手間ではなからうか？
569 と思って結局やらなかったです。
570
571 これが大人になるということですね。哀しいです。
572
573 ■効果音:少し炒める音
574
575 鶏肉もいい感じですね。残りの食材も入れちゃいましょう。
576
577 ▼位置:左耳側に立つ【普通】正面を向いてマイクの手元を見る
578
579 まずはジャガイモ……。
580
581 ■効果音:ジャガイモを入れる音
582

583 そして、人参。
584
585 ■効果音:ニンジンを入れる音。
586 ■効果音:軽く混ぜ合わせる音
587
588 ここに薄力粉と……。
589
590 ■効果音:薄力粉を入れる音
591
592 塩コショウ。
593
594 ■効果音:塩コショウを入れる音。
595 ▼位置:左耳【普通】
596
597 先輩、粉っぽさがなくなるまで炒めて下さい。
598 ここは腕の見せ所ですよ。
599
600 油断していると薄力粉が焦げちゃいますから……。
601 クリームシチューがブラックシチューになるか、ならないかの瀬戸際です。
602
603 頑張ってください、先輩！
604
605 ■効果音:しばらく炒める音
606
607 ブラックシチューは回避できたみたいですね。
608 流石です先輩。ふふ。
609
610 そろそろお水を入れてもよさそうですね。
611 ちょっと待ってください。
612
613 ■効果音:冬が計量カップに200 mlの水を入れる音
614
615 お待たせしました。
616 入れちゃいますね。
617
618 ■効果音:フライパンに水を入れる音

619 そしたら弱火にして、15分ほど煮込んでいきましょう。
 620
 621 完成まであと少しですよ先輩
 622
 623 ■効果音:環境音フェードアウト
 624 ■効果音:環境音フェードイン
 625 ▼位置:前【普通】
 626
 627 それではすよ。長い長い階段を上がって待っていたのは――。
 628 っと、そろそろ15分ですね。
 629
 630 ジャガイモとニンジンに火が通ったら、いい感じですよ。
 631 竹串を使って確かめてみましょう
 632
 633 ■効果音:竹串を人参に刺す音(なんとなく大丈夫です)
 634 ▼位置:左耳側に立つ【普通】正面を向いてマイクの手元を見る
 635
 636 大丈夫そうですね。
 637 そしたら味付けに牛乳とコンソメを入れましょう。
 638
 639 ▼位置:前【普通】
 640
 641 牛乳取ってきますね。
 642
 643 ■効果音:移動音 冬
 644 ■効果音:コンソメを入れる音 主人公
 645 ■効果音:遠くで冷蔵庫の開閉音
 646 ■効果音:移動音 冬
 647 ■効果音:牛乳をシンクに置く音
 648
 649 ちょっといい牛乳ありませんでしたから、
 650 今日のスープは豪華ですね。ふふ
 651 贅沢に入れちゃいますね。
 652
 653 ■効果音:牛乳を計量カップに入れて、フライパンに入れる音
 654

655 よしっと……。

656

657 コンソメは——あ、もう入れてくれたんですね。

658 気が利きますね先輩。

659

660 これであとはちよつと煮詰めたら完成間近です。

661

662 ■編集さんへ…30秒ほど煮詰める音

663 ■効果音…環境音フェードアウト

664 ■効果音…環境音フェードイン

665

666 いい感じに煮詰まりましたね。

667

668 仕上げに、ピザ用のチーズをたくさん入れちゃいましょう。

669

670 ……頑張れ、明日の私。

671

672 ■効果音…チーズを入れる音

673

674 これでチーズが解けきったら完成です。

675 わーカロリーの化け物だ〜(棒)

676

677 ▼演技指示…独り言

678

679 ≪冬≫

680 ジョギングだけじゃなくて、ほかの運動も取り入れなきゃですね。

681

682 ■効果音…少しの間煮詰める音

683 ▼位置…左耳側に立つ【普通】正面を向いてマイクの手元を見る

684

685 ちよつと失礼しますね……。

686

687 ▼位置…左耳【普通】

688

689 はい、もう大丈夫そうです。これにて完成です。

690 とてもとてもカロリーが、じゃなくて美味しそうなシチューです。

691	あ、お皿持って来ますね。
692	
693	■効果音:移動音
694	■効果音:遠くでお皿を取る音
695	■効果音:移動音 お皿がカチャカチャなる音
696	▼位置:前【正面】
697	
698	はい、先輩。好きなだけよそって下さい。
699	
700	■効果音:お皿を渡す音 (二枚持ってます)
701	■効果音:オタマを取る音
702	
703	オタマもどうぞ
704	
705	■効果音:オタマを渡す音
706	■効果音:シチューをよそう音
707	■効果音:お皿もシンクの上に置く音
708	
709	わ、私の分もよそってくれるんですか？
710	あ、それじゃ、す、少な目で大丈夫ですの。
711	
712	■効果音:お皿を渡す音
713	▼位置:左耳側に立つ【普通】正面を向いてマイクの手元を見る
714	
715	あの、本当に少な目で……。
716	
717	■効果音:シチューをよそう音
718	
719	ああ、そんなにたくさん、ああ、カロリーの音が――。
720	
721	■効果音:お皿を渡す音
722	▼位置:左耳【普通】
723	
724	あ、ありがとうございます。
725	
726	

727	▼演技指示：独り言のように
728	
729	頑張れダイエット。頑張れ明日以降の私。
730	
731	▼位置：前【普通】
732	
733	そ、それじゃ、向こうでいただきますようか。
734	
735	■効果音：移動音×2
736	■効果音：机にお皿を置く音
737	■効果音：椅子に座る音
738	▼位置：正面【遠く】
739	
740	どうぞ、先輩スプーンです。
741	
742	■効果音：スプーンを手渡す音
743	
744	それでは、手と手を合わせて——頂きます。
745	
746	■効果音：手を合わせる音
747	■効果音：シチューを食べる音
748	
749	うう、美味しいです。背徳の味がします。
750	チーズの濃厚さがお腹にきます。
751	
752	先輩はどうですか？
753	
754	……そうですか。なら明日は私のダイエットに付き合ってくださいね。
755	
756	約束です。
757	
758	うう、美味しい、美味しいです。
759	
760	■効果音：食べる音フェードアウト
761	

798 先輩の使うキャラのパターンはだいたい読めてきました……ここですやがみ避けして、
799 今です！ 空中コンボを——って、あつ、あつ……先輩、先輩、
800 それはずるくないですか……。

801
802 ああ、体力ゲージが真っ赤に……もしかして先輩、ちよつと性格悪くないですか？
803 今の、間違いなく誘ってましたよね？ ですよねっ！
804

805 むっつ、意地悪な先輩です……。につくき先輩を倒すために、ちよつと集中します。
806 勝負はまだまだこれからです……。

807
808 ……、ここで……こーして……あつ……また……でもここから……。

809
810 ふん、ふん……ふんっ……あ、待って、待って……あと、少し……。
811 あつ……やばっ……あつ、あ~~~~っ。

812
813 ▼演技指示：ふてくされた感じで
814

815 ……もう、今日はゲームやめましょう。面白くないです。
816 だって、先輩強すぎるんですもん……勝てる未来が見えません。
817

818 ……手加減されても嬉しくないですもん……。

819
820 ■効果音：膝に頭が乗る音

821 ▼位置：前【近い】

822
823 よいしょつと。
824

825 お膝、お借りしますね。私、今、不貞腐れてます。
826 彼女さんが、不貞腐れてご機嫌斜めですよ、彼氏先輩。
827

828 ■効果音：頭を撫でる音
829

830 頭を撫でれば私の機嫌が直ると思いますか？
831 む~~~~っ、正解なのが悔しいです。
832
833

■編集さんへ：5秒くらい間

先輩の手、温かくて好きです。
ふう、荒んだ心が洗われる気分です。

私、ゲームとなると少しむきになってしまっ、きらいがありますね。
反省しないと、とは思っているのですが、どうにも感情のコントロールが苦手で…。

……ゲームが趣味なの以外でしたか？ そうですね大学の皆さんも高校の頃の同級生も、
私がゲームをやっているなんて、誰も知らなかったと思います。

隠していましたし……。

私も普通の人間ですから、ゲームのひとつやふたつや百本くらいは嗜んでおりますよ。

■編集さんへ：10秒くらい間

心も落ち着きを取りも出したところで……。

■効果音：寝返りを打つ音

■効果音：ゲーム機を取る音

■効果音：ゲーム起動音

▼位置：前・マイクを背にして【普通】

またゲーム、再開です。

あつ、今回はソロでやります、先輩とやると私の負の一面がたくさん出て来そうなので、
先輩には私の可愛いところだけ見ていてほしいのです。

……。

……………。

ちょっと恥ずかしいですね、言ってから後悔しました、あはは。

先輩は頭を撫で続けててください。

そうすればいつも苦戦しているボスにも勝てそうですから。

■効果音：コントローラカチャカチャ音

誕生日にこーして先輩とまったり過ごせるのもいいですね。
丁度、今頃は大学の講義が終わって、今からこの家に帰ってくる頃です。

大学を休んでしまったのは、誠実さを売りにしている身をしては心を痛めますけど、
先輩と一緒にまったりできると思えば、まあ許容範囲です。

先輩と出会ってから、ちよつとずつ真面目の皮が剥がれて、悪い子になってしまいますね。
先輩は罪人です。自覚しますか？

■編集さんへ:3秒くらい間

……あつ、勝てました……！ しかもこの人、私よりランクが高いです……！
先輩と話しながらなのに、私凄いいえ、先輩と話しているからでしょうか？

こんな時でも先輩は私のためになってくれてるんですね。
もう先輩なしじゃ、私生きていけませんよ。なんて、です。

■効果音:5秒くらい コントローラ音

……今日は私の誕生日で、明日はクリスマスイブ。
その次の日はクリスマス当日です。

そのあとは冬休みに入って、特に旅行とかの予定もないのですが、
生粋のインドアな私は先輩と、このお家で過ごせるだけで幸せです。
ずっと楽しい、毎日が続きますね……。

■効果音:10秒くらい コントローラ音

あつ……負けちゃいました……。
ふふ、幸せな気分していると、闘争心が削がれてしまいますね。
いい勉強になりました……。

ちゅ……。

■効果音:ゲーム機を机に置く音

906 ■ 効果音：冬が立ち上がる音

907 ▼位置：前【普通】

908

909 そろそろ、夕飯の準備をしちゃいましょうか？

910 本当はこの後出かける予定でしたけど、この雪じゃ無理そうですね。

911

912 さっき調べたらお店も臨時休業するみたいです。

913 ふふ、なんだか散々な誕生日ですが、先輩と過ごしているとそんな気分にはなりません。

914

915 いつもの日常が私にとっては大切な記念日です。

916

917

918 (■トラック 6)

919

920 ■【主人公】ベッドに座っている

921 ■BG窓の外で雪が降ってる音(窓がカタカタなってる音)

922 フェードインからループ

923 ■効果音:扉が開く音

924 ▼位置:前【遠く】

925

926 ≪冬≫

927 先輩、お風呂いただきました……。

928 ふう、冬は熱いお風呂で身体を温めるに限りますね。ほかほかしています。

929

930 ■効果音:扉を閉める音

931 ■効果音:足音

932 ▼位置:前【普通】

933

934 外、雪が凄いですね。大雪です。今日は大学を休んで正解だったかもしれません。

935 先輩に感謝しなきゃです。ありがとうございます。

936

937 隣、失礼しますね。

938

939 ■効果音:ベッドに座る音

940 ▼位置:左耳側【近く】正面を向いて。

941

942 ふふ、今も好きな人の隣って緊張しちゃいます。

943 ドキドキして少し落ち着かなくて、でも安心する。不思議な感じです。

944

945 ▼位置:左耳【普通】

946

947 先輩。手、繋いでもいいですか？

948 ……ありがとうございます。

949

950 ■効果音:手を握る音

951 ▼位置:左耳側【近く】正面を向いて。

952

953 温かい。先輩の手はいつも温かいですね。

954 私、体温は人より少し低いんです。名前の通り、冬の女なので、あはは。

955

956 だから先輩に定期的に温めて貰わないと、凍えてしまいます。

957

958 凍えて身動きが取れなくなってしまうです。だから私には先輩が必要なんです。

959

960 いつまでも一緒にいてください。先輩。

961

962 ……。

963

964 ふふ、照れくさいです。

965

966 ■効果音：主人公が腰に抱き付く音

967

968 ▼位置：前【近い】※マイク位置変更箇所※

969

970 ひゃあ……せ、先輩？

971

972 腰に抱き付いたりして……ふふ、また泣き虫さんですか？

973

974 今日の先輩は泣き虫さんで甘えん坊さんです。

975

976 ……謝らないでください。先輩に甘えてもらうの、好きですよ。私。

977

978 いつも先輩に甘えてばかりの私ですから、たまには恩返しをさせて下さい。

979

980 こーして甘えられるのも彼女冥利に尽きるというものです。

981

982 ……ふふ、可愛い先輩。

983

984 ※編集さんへ：5秒くらい間

985

986 ……そうだ、耳かきしませんか？

987

988 こんなに甘えてくれる先輩は久しぶりですから、

989

最後の最後までたっぷり甘えさせてあげます。

■効果音：耳かきを取る音（ペン立てに入ってる耳かき）

987

988 耳かきは……あったあった、こんな時の為に、枕元に置いておいたんです。

989

あの頃の私はどんな時を想定していたのでしょうか？ ふふ。

990 よし。

991

992 先輩……私の膝に頭を預けて下さい。膝枕です。

993

994 腰に抱き付かれたままじゃ、先輩の顔、見れないです。

995

996 それは彼女としては凄く寂しいですよ。

997

▼位置：前【近く】

998

999 ほら、先輩。頭、ゴロンってして下さい。

1000

1001 ■効果音：膝枕する音

1002

▼位置：右耳【近く】

1003

1004 ふふ、くすぐりたい……先輩、ドライヤー少しさぼりましたね。

1005 まだ少し湿っています。横着な先輩です。

1006 今度、私がドライヤーしてあげましょうか？先輩のお世話するのも楽しそうです。

1007

1008 ……ふふ、約束ですよ。

1009

1010 それでは、早速耳かき、初めていきますね。

1011 まずは外側から……擦るようにこちょこちょとしていきます。

1012 もしくすぐったかったら、お声がけください。ふふ。

1013

■効果音：耳かき 外側 開始

1014 ▼演技指示：耳かき中の『：』は一文字につき2秒～3秒程の吐息をお願いします

1015

1016 ……。

1017

1018 ……。

1019

1020 ……。

1021

1022 ……。

1023

1024 ……。

1025

1026
1027 ……お耳弱いんですね。
1028
1029 ……。
1030
1031 ……。
1032
1033 ……。
1034
1035 今日は先輩の意外な一面がよく知れる日でした。
1036 これが私の誕生日プレゼントだったりするのでしょうか？
1037
1038 なんて冗談ですよ。
1039 ちゃんと先輩からは、雪の結晶のネックレスをいただきました。
1040
1041 色が桜色なのが個人的に凄く好きです。
1042
1043 生まれたと月も名前も冬ばかりですから、
1044 桜の色をしているだけで、春の訪れを感じます。
1045
1046 それと先輩が送ってくれた言葉。
1047
1048 妙冬（びょうとう）——。冬が過ぎて、春が訪れる。季節が廻る（めぐる）ように、
1049 これからずっと先も一緒にいたい、って。
1050
1051 素敵なお言葉です。
1052
1053 ……先輩、少し赤くなってますね。
1054 照れくさい感じですか？
1055
1056 私は嬉しかったですよ？
1057 大丈夫です、私以外聴いていなので恥ずかしがらないでください。
1058
1059 先輩の言葉ひとつひとつが私の宝物になります。
1060 先輩が言葉を紡いでくれるから、私は明日も生きられるのですよ。
1061

1062 寒い冬が私で、温かい春の息吹が先輩です。
1063 彼岸過ぎまで七雪。

1064 春の彼岸が過ぎても雪はまた降る、ということわざがあります。
1065

1066 冬と春は切っても切り離せない関係なようです。
1067

1068 先輩ともそうなれたらいいなって、願っています。
1069

1070 ……。

1071 ……………。

1072

1073 ……………。

1074

1075 はい、外側はここまでにしときましょう。
1076

1077 ぴくぴくするお耳も可愛いですが、
1078

1079 やり過ぎて先輩に傷を付けたくありません。
1078

1079 奥の方、やっていきますね。
1080

1081

■効果音:耳かき 奥

1082

1083 ……………。

1084

1085 ……………。

1086

1087 ……………。

1088

1089 どうですか？ 痛くとかありませんでしょうか？
1090

1090 ……そうですか……気持ちいいならなによりです。
1091

1092 ……………。

1093

1094 ……………。

1095

1096 ……………。

1097

1098 先輩は、私がいなくなるのが怖いのですか？

1099 ……怖い夢、それは私がいなくなる夢。そう仰っていましたね……。

1100

1101 それこそ泣いてしまうくらい、怖かったのですか？

1102

1103 ……そうですか。

1104

1105 私も同じ気持ちなんです。

1106 もう先輩がいない世界なんて考えられません。

1107

1108 私の前から……傍から消えていってしまうなんて、悪夢そのものです。

1109

1110 きつと先輩が思うより、私は重く、弱い女なんです。

1111

1112 日に日に先輩への想いが連なり重なり、積もっていきます。
まるで雪のように、積雪していきます。

1113

1114 私の想いが、しんと降り積もります。

1115

1116 先輩は意外と鈍感さんですから、私がどれだけ先輩のことを好きかなんて、
きつとわかってないですね。

1117

1118 ……ふふ、でも、それでいいんです。

1119

1120 私の恋心は火傷するくらい冷たい焰（ほむら）です。

1121

1122 近づいたら低温火傷しちゃいますから。

1123

1124 ……なんてです。

1125

1126 ……。

1127

1128 ……。

1129

1130 ……。

1131

1132 冬木に春の息吹を与えてくれた先輩が、好き、なんです。

1133

私は誰よりもあなたが好きなんですよ。

1134
1135 だから、ね。先輩。私がいなくなるなんてことは、ありませんよ。
1136
1137 夢は夢ですから、きつと覚めるはずです。
1138 それが悪夢であろうと、きつと終わりはあります。
1139 だから安心して下さい。
1140
1141 大丈夫です。私は先輩の傍を離れません。約束です。
1142
1143 ……………。
1144
1145 ……………。
1146
1147 ……………。
1148
1149 ……………。
1150
1151 はい、こちらのお耳はこのくらいにしておきましょう。
1152
1153 次は反対のお耳です。
1154
1155 先輩、ゴロンって出来ますか？
1156
1157 ■効果音：ゴロンする音
1158 ▼位置：左耳【近く】
1159
1160 はい、ありがとうございます。
1161 こちらも外側からゆっくり掻いていきますね。
1162
1163 ……。
1164
1165 ……………。
1166
1167 ……………。
1168
1169 先輩……また泣いているのですか？

1170 私また、変なこと言ってしまったでしょうか？
1171 ……違うの、ですか？
1172
1173 ではなぜ、涙が止まらないのでしょうか？
1174 その理由を私に教えてもらえませんか？
1175

▼演技指示…このあたりで今いる世界が追憶の世界であることを冬が悟る

1176
1177 ……。
1178
1179
1180 ……。
1181

1182 いえ、無理に口を開かないください。
1183 覚めない夢があってもいいのかも知れませんね。
1184

1185 ……。
1186

1187 ……。
1188

1189 ……。
1190

1191 ……。
1192

1193 (アドリブ・吐息・20秒) ※ループ用素材
1194

1195 外側はこのくらいでいいでしょう。
1196

1197 奥のほうもやっついていきますね。
1198

1199 ……。
1200

1201 ……。
1202

1203 ……。
1204

1205 ……。

1206 1206
1207 1207 高校生の頃に初めて人を好きになりました。
1208 1208
1209 1209 これまで勉強に運動、それに家事の真似事まで、
1210 1210 真面目一本でやってきました。
1211 1211
1212 1212 周囲の人は、そんな私を称賛してくれます。
1213 1213 人付き合いもそれなりにこなしてきました。誰からも嫌わない人付き合いを。
1214 1214
1215 1215 だからかどんな人も私を少し遠巻きに眺めるのです。
1216 1216 触れず干渉しない、見世物のように。
1217 1217
1218 1218 高嶺の花を言えば聞こえはいいですが、愛でられない花なんて、
1219 1219 毒の花と差異はないのです。
1220 1220
1221 1221 ……。
1222 1222
1223 1223 誰と心を通わせることなく、
1224 1224 笑顔の仮面の下で、雪がはらはら堕ちるような感覚を味わっていました。
1225 1225
1226 1226 私はいい子ぶって、偽善者ぶって、誰よりも自分をぶって生きていくのだと、
1227 1227 そう思っていた頃です。
1228 1228
1229 1229 私は恋をしました。桜色の恋心を抱いたのです。
1230 1230
1231 1231 理由はきつとはたから聞けば些細なことだったはずで、
1232 1232 なんてこともない、日常でしたから。
1233 1233
1234 1234 あっ、でもこれ以上は秘密です。ちょっと恥ずかしいですから。あはは。
1235 1235
1236 1236 こほん、それで蛍雪の功か、日ごろの行いかはわかりませんが、
1237 1237 私は見事に意中の相手に近づくことが出来ました。
1238 1238
1239 1239 もう最初は緊張しっぱなしで心臓が破裂しそうでした。
1240 1240 でも頑張って、私を覚えてもうと必死にアタックを続けたのです。
1241 1241

1242
1243 それはもうアピールして、アピールして、アピールしたものです。
1244 その努力が実らず、私の初恋のその人はアピールに全然気づかない、
1245 木枯らしのような人だったんですけど……。..
1246
1247 真面目な私は躍起になって、もっともつとアピールをして名前を憶えてもらって、
1248 一緒にご飯を食べて、休日におでかけするくらい頑張りました。
1249 私、こーみえて負けず嫌いなんです。
1250
1251
1252
1253
1254
1255 幸せな時間が流れていきました。
1256 これ以上の幸せなんてないくらいの温かい時間。
1257
1258 とある日。
1259 意中の鈍感な先輩からお呼び出いただきました。
1260 顔を夕陽のように赤くして、その木枯らし先輩は私に告白してくれました。
1261 大好きな人から、大好きと言って貰えました。
1262
1263 きつと私の顔も紅葉のように赤く紅葉していたことでしょう。
1264 あはは、恥ずかしいですね。
1265
1266
1267
1268 紆余曲折あり、高校を卒業して同じ大学へ進学して、同じ家に住むことに。
1269
1270 幸せが降り注ぎ、これは現実なのかと疑いたくなります。
1271 夢であるなら覚めてほしい。
1272 泡沫の雪なんて、人肌で溶けてしまうほど脆いモノですから。
1273
1274 そう思っていたのです。
1275
1276 月雪花を一度に眺めているような日常が綺麗すぎて、
1277 毒の花にはそれこそ毒でしたから。

1278
1279 ですが、違いますね。夢であるなら覚めないで欲しい。
1280 雪は降り止まず、春は来ず。
1281

1282 それでいいのです。覚めない夢であるのであれば、それがいいのです。
1283 二人の温もりがあれば、永遠の夢の中でも温かいですから。
1284

1285 それでいいのです。
1286

1287 現実が正義であり、夢は甘えだと勘違いをしていたようですね。
1288

1289 ……………。

1290
1291 ……………。

1292
1293 ……………。

1294
1295 幸せが降り積もり、雪の上に霜が積もる。

1296 十分すぎる幸せの上に、幸せがさらに重なり、重圧で押しつぶされそうです。
1297 都合が良すぎる不都合が私には丁度いいのです。
1298

1299 ……………。

1300
1301 ……………。

1302
1303 ……………。

1304
1305 ……………。

1306
1307 ……………。

1308
1309 ……………。

1310
1311 はい、耳かきはおしまいです。
1312

1313 もう遅いですから、今日はこのまま二人で寝ましょう。

1314	
1315	覚めない夢を見ながら、二人でずっと。
1316	
1317	■ 効果音：環境音フェードアウト
1318	

1319 (■トラック7)

1320

1321 ■【主人公】ベッドで寝ている。

1322 ■効果音：窓がかたかたと音を立ててる音 フェードインからループ

1323 ■効果音：ベッドで身じろぎする音

1324

1325 ▼位置：前【近い】

1326

1327 ≪冬≫

1328 ふふ、添い寝です。

1329 先輩の近くは温かいですから、かじかんだ手足が溶けるようです。

1330

1331 一家に一台、先輩は必須ですね。ふふ。

1332

1333 ■編集さんへ：3秒くらい間

1334

1335 ……先輩、顔色、よくないですよ？ また嫌な夢を思い出しちゃいましたか？
1336 怖がりな先輩も可愛いです。

1337

1338 そんな怖がりな先輩にご褒美です。
1339 こっちきてください。ぎゅってしてあげますから。

1340

1341 ハグです。ちょっと人より体温が冷たいのは申し訳ないですが、
1342 しないよりは温かいと思いますよ？

1343

1344 ■効果音：ハグする音

1345 ▼位置：次の台詞を言いながら、前【近い】↓左耳【近い】

1346

1347 はい、ぎゅーっ、です。

1348

1349 ■演技指示：以降指示があるまで、囁き

1350

1351 どうですか？ 温かいでしょうか？

1352

1353 ……そうですか、よかったです。

1354

先輩、もっと身体を私に預けてください、私の体温を感じて下さい。

■効果音：身じろぎ音（主人公）

……先輩、頭ぐりぐりしないでください、くすぐったいです。

……。

■編集さんへ：3秒くらい間

夢を見ましょう、先輩。私たちが幸せになる夢を――。

私と先輩、二人がずっといる、幸福な夢を。

夢の中であれば怖い夢なんて見ませんから……。

夢であれば、都合の悪いことはありません。

そんな夢を見ましょう、先輩。

……。

■編集さんへ：3秒くらい間

今、先輩は夢を見ているんですね？

覚めてしまえば終わってしまう泡沫の夢を。

ふふ、何を言っているかわからない顔、しています？

なんとなく雰囲気伝わってきます。

そうですね、わかりやすく言うと。

――先輩は、未来からやってきたのですよね？

■効果音：身じろぎ音

……そんな、驚かないでください。私、先輩の彼女ですよ？

先輩のことであればだいたいはお見通しです。

1355
1356
1357
1358
1359
1360
1361
1362
1363
1364
1365
1366
1367
1368
1369
1370
1371
1372
1373
1374
1375
1376
1377
1378
1379
1380
1381
1382
1383
1384
1385
1386
1387
1388
1389
1390

1391 ■編集さんへ…3秒くらい間

1392 きつと、今日。この誕生日の日に私は死ぬはずだった。
1393 大学に向かう途中でしようか、それとも帰路でしようか。
1394 外は大雪です。きつとそれが原因で私は命を落とす。
1395

1396
1397 ですから引き留めてくれたのですよね？
1398 泣きながら、私の手を取ってくれた。
1399

1400 死んだ私にもう一度会いたくて、来てくれたんですね。
1401 私のいない未来から……。過去へ……。
1402

1403 ……追憶の社——。昔、私も訪れたことがあります。
1404 過去に戻ることはありませんでしたが、綺麗な巫女さんと少しお話をしました。
1405

1406 噂は本当だったのですね。まさか本当に過去に戻ってこられるなんて、驚きです。
1407

1408 先輩、私、不謹慎かも知れませんが、少し嬉しいです。
1409 私が亡くなったあとも、胸に後悔を携えてここまで来てくれた。
1410

1411 私がどれだけ先輩を好きかは、先輩にもわかりません。
1412 そして、先輩がどれだけ私を好いてくれるのかも、私にはわからないのです。
1413

1414 ですが、その一端に触れたような気がして、心が温かいです。先輩の温もりを感じます。
1415

1416 ■効果音：身じろぎ音

1417 そんな気まずそうにしないでください。
1418 流石に今日の先輩はおかしかったですから、彼女だからわかると言いましたが、
1419 先輩が変なのは火を見るより明らかですよ。
1420

1421 急に泣き出したり、甘えん坊になったり。
1422 彼女冥利には尽きますが、普段の先輩なら絶対しない行動です。
1423

1424 まあ、私が追憶の社の伝統を知っていたから、ここまで断言できるのですが……。
1425
1426

1427 ……それで先輩。先輩はもう帰られてしまうのですよね。
1428 私のいない世界に。

1429
1430 過去に戻れても、現実是不変。
1431 あの神社は手を差しのべることはあっても救済はしない。
1432

1433 今、私が生きていられるのも一時の夢のようなもの。
1434 先輩が眠り、起きる頃には夢は覚めます。
1435

1436 私のいない世界に先輩は帰ってしまうのです。
1437

1438 ■編集さんへ：一拍置く
1439

1440 ……はい、きっとそれが正しいことです。
1441 先輩には先輩の人生があります。
1442

1443 歩んできた足跡が刻まれています。
1444

1445 これからも正しい道を進むなら、ここでお別れをするべきなのです。
1446

1447 私はこれまで正しい選択を選び続けてきました。
1448 曲がったことは嫌いです。正しくないことは嫌いです。
1449

1450 そうしないと、私は居場所を失ってしまうから……。
1451

1452 真面目に生きて、ありきたりな幸せを掴むのだと。
1453

1454 そう思い生きてきました。

1455 結果は……。そうですね死んでしまうのですから、良かったとはいえませんが、
1456 ですがかけがえのない、ありきたりな幸せは手にすることができました。
1457

1458 ……先輩、まだ動揺していますね。
1459

1460 追憶の雪——。もしかしたら私は本当の私ではないかも知れません。
1461 先輩が望んだ、架空の私なのかもしれません。
1462

ですが、私は私です。だから言えます。

1463 先輩と恋人になれて、幸せだったと……。

1464 一生分の恋をしたのだと。胸を張っていうことができます。

1465 埋もれ木に花が咲くような幸せだったのです。

1466

1467 悔いはないかと訊かれれば、あります。

1468 先輩を置いていってしまったこと、先輩と一生を添い遂げられないこと。

1469

1470 他にも数えきれないほど、あります。

1471

1472 でもですよ先輩。

1473

1474 凄惨な死を遂げたとしても、私は最後まで幸せでした。

1475 幸せのまま死ぬことが出来たんだと思います。

1476

1477 それは断言できます。現実の——死んでしまった私も後悔はあったはずですが、
1478 決して不幸でなかったと、言い切る事ができます。

1479

1480 先輩、私は先輩と会えて、幸せ、でしたよ。

1481

1482 ……。

1483

1484 先輩……。そろそろ雪解けは近いです。春の足音が聴こえてきます。
1485 きつとここで眠り、目が覚める頃には、もう春になっています。

1486

1487 私のいない、春に進みましょう。

1488

1489 ■編集さんへ：5秒くらい間

1490

1491 先輩……私がいなくても、大丈夫ですか？

1492 私がいない世界でも生きていられますか？

1493

1494 一人で——いえ私以外の人と触れ合い、幸せになれますか？

1495 どうですか？ 先輩。

1496

1497 ——そう、ですか。

1498

1499 ………。

1500

やはり先輩はお強い方です。

1501

私を心配させまいと、そう言ってくれるんですね。

1502

1503

一人でも大丈夫と、心無い温かい言葉を。

1504

1505

ですが――。

1506

1507

■効果音：強く抱きしめる音

1508

▼演技指示：泣きそうになりながら

1509

▼位置：前【近く】※マイク位置変更箇所

1510

1511

私は――私は嫌です！

1512

1513

先輩にいらなくなってほしくない。先輩の傍を離れたくない。

1514

先輩に行ってほしくない。このまま残ってほしい。

1515

二人で、ずっと、この追憶の世界にいて、ほしいです。

1516

1517

曲がったことは大嫌いです。正しくないことは嫌です。

1518

1519

ですけど、先輩を失うくらいなら、先輩がいなくなるくらいなら。

1520

私は、私は――。

1521

1522

(すすり泣く・5秒ほど)

1523

1524

先輩を笑顔で見送って、私のいない世界でも先輩が幸せであることを願うことが、

1525

今の私がするべきことであると、わかってはいるんです。

1526

1527

私はもういないのですから、今を生きる先輩の手を引いて送り出すことが、

1528

きっと彼女として正しい行為。頭でわかっているけど感情がコントロールできません。

1529

1530

先輩を離したくない、先輩とずっと一緒にいたい。私を置いて行ってほしくないって、

1531

心が悲鳴を上げてるんです……。

1532

1533

1534

1535 私、こんなに我儘な女だったのでしょうか？
1536 駄々っ子は私の方ですね。
1537

1538 ごめんなさい。私、彼女失格、ですね。
1539

1540 ………。

1541
1542 それでも、私は先輩に行ってほしくないんです。
1543 現実に帰ってほしくありません。理解のある彼女になれなくてごめんなさい。
1544

1545 ずっとこの追憶の世界に二人で一緒にいたいです。

1546 きっと私は偽物で、本当の私はもう死んでいて、紛い物でしかありません、
1547 けど私の心が記憶が感情が、あなたを求めてしまうんです。
1548

1549 私は強い人間ではありません、強く在ることに憧れを持った、弱い生き物なんです。
1550 弱く強かで、脆く頑固な性格の悪い女です。

1551 先輩が過去に来てくれた、私に会いに来てくれた。
1552 死んだはずの私に、噂話にも満たない伝承を聴いて。
1553

1554 そんなこと知ってしまったら、
1555 あなたが私をこんなにも愛してくれていると知ってしまったら、
1556 もうあなたなしでは生きられません。
1557

1558 先輩が遠く行ってしまうことが、自分が死ぬことより怖いんです。
1559 一度この手を放してしまったら、もう二度と先輩に会えない。
1560 それが何よりも怖いんです。
1561

1562 ここが夢の世界であろうが、私が偽物であろうが、
1563 先輩を離したくない気持ちだけは、本当なんです……。
1564

1565 先輩、先輩……先輩先輩先輩。
1566

1567 一緒に、私と一緒にこの世界が終わるまで、傍に居てくれませんか？
1568 この世界が崩壊するまでずっと、二人で——。
1569

1570 そして——一緒に死んではくれませんか？

1571 ………。

1572

1573 ……一緒に、いて、くれるん、ですか？

1574

1575 あ、ああ、先輩……先輩……先輩……。

1576

1577 (声を殺して泣く・5秒)

1578

1579 ごめん、なさい。ごめんなさい……。ごめんなさい……っ！

1580

我儘で、ごめんなさい。弱くてごめんなさい。

1581

先輩の人生を奪ってしまったってごめんなさい。

1582

1583 (声を殺して泣く)

1584

1585 フェードアウト

1586 (■トラック 8)

1587

1588 ■【主人公】添い寝している。

1589 ■効果音:身じろぎ音

1590 ▼位置:前【普通】

1591

1592 ……先輩、まだ起きていますか？

1593 ……先ほどは失礼しました、私としたことが取り乱してしまいました。

1594

1595 ■効果音:抱き寄せる音

1596 ▼位置:前【近い】

1597

1598 あっ……先輩……ありがとうございます。

1599 先輩に抱きしめられると、安心します。私がここにいってもいいのだと実感します。

1600

1601 今まで何度も抱きしめていただきましたが、この温もりが当たり前でないと強く思います。

1602

1603 ……先輩……明日も明日からもずっと一緒にいて下さい。

1604 この世界が崩壊するまで、ずっとに……。

1605

1606 ……はい、ありがとうございます。

1607

1608 先輩……そんな不安そうなお顔をしないでください。

1609 もうどこにも行きません、先輩から離れたりしませんから、ね。

1610

1611 この世界の吹雪が降り続ける限り、ずっと一緒です。

1612 黙って先輩を置いて行ったりしません。

1613

1614 死ぬまで一緒にいることを約束します……。

1615

1616 ■効果音:身じろぎする音

1617

1618 ふふ、甘えん坊ですね、先輩。

1619

1620 ……えいっ

1621

1622 ■効果音：抱きしめる音 冬

1623

ぎゅうつ、です。

1624

先輩……私の心音聞こえますか？

1625

とくん、とくんって聞こえておりますでしょうか？

1626

1627

……はい。

1628

1629

大丈夫です、私はちゃんと生きていますよ。

1630

最期まで先輩の傍を離れません、安心して下さい。

1631

1632

悪夢はもう終わったのです。これから幸せな夢が続くだけです。

1633

私と先輩の幸せな夢がずっと、ずっと。

1634

1635

明日も明後日も、その次の日も永遠に……二人しかいない、世界です。

1636

私はそんな世界こそが自分にとっての幸福だと思っています。

1637

1638

もう先輩に会えない現実なんて、永遠の悪夢ですから。

1639

それなら二人だけの閉ざされた追憶の世界で先輩と一緒にいる夢の方が、心地がいいのです。

1640

1641

先輩もそうだったら、嬉しいです。

1642

1643

1644

……はい。そう、ですね。

1645

1646

……。今日は私の心音を聴いて眠って下さい。

1647

この鼓動が鳴り続ける限り、この世界に終わりはありません。

1648

ですから安心してお眠り下さい。先輩。

1649

1650

また明日、いつも通り、二人でいましょう。

1651

大好きです、愛しています先輩。

1652

1653

おやすみなさい、また明日、です。

1654

1655

(アドリブ・自然な吐息・20秒) ※ループ用

1656

1657

1658	■編集さんへ…しばらく心音と吐息を流す
1659	
1660	(アドリブ・寝息・20秒) ※ループ用
1661	
1662	■編集さんへ…しばらく心音と寝息を流す
1663	

1664 (■トラック 9)

1665
1666 ■効果音：春の環境音 フェードインからループ

1667
1668 ▼位置：前【普通】

1669
1670 ≪巫女≫

1671 冬は終わらず春は訪れない。

1672 そうですか、やはりそうになりましたか。

1673
1674 追憶の世界に生きる事を選んだんですね。

1675 それがあなたの、あなた方の選択であるなら、それはそれでいいでしょう。

1676
1677 追憶の社は手を差しべ、手助けはしますが救済は致しません。

1678 過去で行う行動や、選択は各々の判断でしかありませんから。

1679
1680 ですが、少し残念です。

1681
1682 過去の旅路は甘く脆弱な空間です。胸の傷が大きければ大きいほど、

1683 過去の誘惑から逃れることは難しいはずです。

1684
1685 ですが、あなたなら——。いえ、これ以上は無粋というものでしょう。

1686
1687 何が幸せか、何が不幸なんて他人である私が断定するものではありませんから。

1688 私は巫女です、神に仕えるだけ。役目はそれだけ。余計なことは言わず、思い出さず。

1689
1690 ただここを訪れる方々に選択肢を委ねるだけ。私情を挟んではならないのです。

1691
1692 深紅に染まった鳥居は黒くなり、やがて灰になる。

1693 もう戻る事はありません。

1694
1695 戻ってくることはできません。追憶の雪は解けず、冬は終わらない。

1696 どうか幸せにお過ごしになれますように。

1697
1698 なんて巫女がしていいお願いではありませんね。

1699

1700 灰になった鳥居がまた一つ。

1701

1702 次は何色に染まるのでしょうか？

1703

1704 桜の花びらがはらはら、はらはらと。

1705

1706 先ほどまで赤く染まっていた鳥居に零れ落ちる。

1707

1708 涙のような花卉が重なり合う。

1709

1710 雪のように冷たい花卉が溶けてなくなった。

1711

※場面転換※

1712

1713 ≪巫女≫

1714 後悔は誰にでもあることです。

1715

1716 後悔と言う名の傷を人間であれば誰しも負っています。

1717

1718 小さく陽炎のようにゆらゆら揺れる傷もあれば、

1719

1720 烈火のごとく身を燃やす傷もあります。

1721

1722 あなたはどうでしょうか？

1723

1724 もしも、後悔している人間が目の前に現れたときに、

1725

手を差し伸べることができますか？

1726

1727 いいえ、手を離すこと、手放すことはできますか？

1728

1729 ≪冬≫

1730 そうですね。きっと私は無理ですね。

1731

最愛の人が伸ばした手を振りほどくなんて、私はそこまで強い女ではありません。

1732

1733 それどころか、その手を掴み、二度と離れないくらい強く握りしめてしまいかも知れません。

1734

1735 まだ彼にはバレていないと思うんですが、私重い女なんです。

こと彼に関しては誰よりも想っています。

1736 たとえ世界が減びようとも、私は最後まで彼のもとから離れません。
1737 私が死んだとしても、ずっと彼を思い続けることでしょう。
1738

1739 冬——雪のように冷たい女はいつだって、温もりを求めているんです。
1740 ほら——。

1741
1742 ≪巫女≫
1743 雪が降ってきましたね。
1744

1745 ≪冬≫
1746 冷たい氷の結晶が。
1747

1748 ≪巫女≫
1749 はらはら、はらはら。
1750

1751 ≪冬≫
1752 はらはら、はらはら。
1753

1754 ≪巫女≫
1755 選択肢はあなたにあります。
1756 悔いのない道を歩むことを切に願っております。
1757

1758 ≪冬≫
1759 いいえ、選択肢は私にはありません。
1760 私は先輩が選んだ道と手を取り、共に歩んでいくだけですから。
1761

1762 巫女さんも、いつかは——。

1763
1764 ≪巫女≫
1765 私は巫女です。過去のしがらみからは足を洗っているのです。
1766

1767 ≪冬≫
1768 そうですか。お節介かもしれませんが、人の幸福は人それぞれです。
1769 自分の杓子定規で決めないことも大切です。
1770 他人の杓子定規で惑わされないことですよ。
1771

1772 あなたは——亡霊のような人ですから。

1773

1774 《巫女》

1775 心に留めておきます。

1776

1777 《冬》

1778 それでは、私は帰ります。今の私には追憶の鳥居は姿を現さないことでしょうし。
1779 今の私は幸せですから。

1780

1781 《巫女》

1782 はい、お気をつけてお帰り下さい。
1783

1784 (■シークレットトラック)

1785

1786 ※BGMを用意予定※

1787 ※通常マイクで収録予定。

1788

1789 吹雪で窓がかたかたと音を立てている。

1790 春の来訪を阻害するよな、力強い吹雪が鳴いている。

1791 そんな音で私は目を覚ます。辺りはまだ暗い、まだ夜なのか吹雪のせいで暗いのか、
1792 判断はつかなかった。

1793

1794 そもそもこの幻想世界に時間という概念はあるのかどうかすら、わからない。
1795 無限に流れる有限な時間。過去のまま未来へ足踏みする。

1796

1797 きつと戻る事はできない。ここが旅の終着点だ。

1798

1799 ふと目を開けると、そこには大好きな先輩が寝息を立てている。

1800

1801 死んだ私を求めて過去まで来てくれた。最愛の人。
1802 嬉しくて、それが悲しい。

1803

1804 私はなんて残酷な選択を迫ってしまったのだろう。
1805 絶対に言ってはいけないことを言ってしまった。

1806

1807 この世のものではなくってしまった、人間が言ってはいけない禁断の誘い。

1808

1809 心のどこかでわかっていた。

1810

1811 私が先輩を求めてしまえば、先輩はその手を振り払うことができないと。

1812

1813 だから、我慢するつもりだった。言わないつもりだった。

1814

1815 でも、無理、だった。今日一日だけでわかってしまった。

1816

1817 先輩という幸せが、私にとってどれだけかけがえないものであるかと。
1818 他の何を犠牲にしても、先輩と共にいることが、私の夢であると。

1819

1819 つい本音が漏れてしまった。

1820 先輩は、私の願いを聴いて……瞳に涙を浮かべながら笑顔で頷いてくれた。

1821

1822 まるで憑き物が落ちたように、笑顔を向けてくれた。

1823

1824 きつと涙の中に先輩の葛藤や、現実世界の未練が詰まっていたのだと思う。
1825 涙を落とし、私だけを見てくれた。それがとても悲しくて、嬉しかった。

1826

1827 私はこんなに嫌な女だったかな。

1828

1829 「これも全部、先輩が悪いんですよ」と。

1830

1831 寝ている先輩に言葉を投げかける。

1832

1833 他責であることはわかっているけど、それでも言わずにはいられなかった。

1834

1835 こんなにも間違った道を選んできたのは、先輩だから。

1836

1837 彼の誰かであれば、きつとこんな選択はしなかった。

1838

1839 いつも通り、正しい答えを、心にもない正義を振りかざしていたと思う。

1840

1841 現実に戻れと、今までの私なら、先輩を知らない私にならそう言っている。

1842

1843 恋は盲目とはいけど、恋は人を狂わせる何かがある。

1844

1845 決して進んではいけない道を歩んでしまう、何かが……。

1846

1847 夢なら覚めないでほしい。夢だから覚めないでほしい。

1848

1849 幻想の世界。追憶の世界はいつたいいつまで続くのだろうか。

1849

1847 それは私にはわからない。

1848

1849 けど、一つだけはっきりしているのは、最期まで先輩と一緒にということ。

1849

1850 生前と自分で言うのは違和感があるけれど、私じゃない私に唯一勝てるものが、
1851 死ぬ間際まで先輩と一緒にということ。

1852

1853 勝手に死んでしまい先輩を悲しませた、私に一矢報いることができる。

1854

1855 なんて、まさしく独り相撲だ。一体誰と張り合っているのだが。

1855

「先輩。愛しています。死ぬまで、死んでも、ずっと」

1856 自分の喉から出たのが信じられないほど、甘い毒のような声で、
1857 呪いの言葉を吐き出す。
1858

1859 依存——冬の依存。
1860

1861 甘くて、脆いゆえに、お互いがお互いを支えあう。
1862 ふとした拍子に崩れてしまう、歪な依存で私たちはこれからを、
1863 これまでを生きていく。
1864

1865 私が先輩を愛してるという呪いをかけたように、私自身に私は呪いをかける。
1866

1867 幸せであれ、と。
1868

1869 いつ崩れ落ちるかわからない世界であっても、先輩が傍にいてくれる。
1870 傍にいてくれることを選んでくれた。
1871

1872 そんな私が悲劇を装ってはダメだ。
1873 誰よりも幸せでなければいけない。
1874

1875 それが私にかける幸せの呪いだ。
1876

1877 もぞもぞ先輩が動く、目が覚めたのだろうか？
1878 私は私ができる最大限の笑みを張り付けて——
1879

1880 「おはようございます。先輩」と。
1881

1882 先輩がいてくれる世界にいるなら、私は幸せだ。
1883

1884 End
1885